

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和6年2月2日（金）13時30分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・ 「みえ探究フォーラム2023」を開催します
- ・ 高校生が小中学校で防犯及び交通安全に関する出前授業を行います

質疑事項

- ・ 「みえ探究フォーラム2023」を開催します
- ・ 高校生が小中学校で防犯及び交通安全に関する出前授業を行います
- ・ 職員の人事異動（市町立小中学校）について
- ・ 三重県立中学校条例案について
- ・ 三重県公立学校情報機器整備基金条例案について

発表項目

○ 「みえ探究フォーラム2023」を開催します

児童生徒の自然科学、社会科学、人文科学に対する興味・関心をさらに高めるということを目的に、「みえ探究フォーラム2023」を開催いたします。こちらは、大きく2つのイベントがあります。1つは、高校生、中学生による課題研究等の発表、もう1つは、高校生による小学生向け科学体験講座です。日時は2月10日土曜日、場所は課題研究の発表の方が総合文化センター、科学体験講座が総合博物館になります。実施内容ですけれども、資料の「2 内容」のところにありますように、まず（1）の高校生、中学生による課題研究等の発表についてですが、これは県内の高校生、中学生が自ら設定した課題に対し、フィールドワークや実験を通じて取り組んだ「探究的な活動」の研究成果について、口頭発表、ポスター発表を行うものです。ここで、いきなり「探究的な活動」という教育用語が出てきましたので、ちょっと説明します。これは、問題解決に向けて、課題設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現というプロセスを発展的に繰り返していく教育活動で、今現在高校の方で、非常に積極的に行われている活動のことです。皆さんよくご存じだと思いますけども、小中学校で今も、「総合的な学習の時間」というのがありますが、高校ではより高度に探究活動を行おうということで、現行の学習指導要領から「総合的な探究の時間」という時間に変わっておりまして、令和元年度入学生から先行実施されています。現在の高校の学習指導要領の特徴にもなっています。資料に戻りまして、（1）の2つ目のポツのところですが、口頭発表、ポスター発表それぞれについて、審査委員や参加生徒が評価を行います。観点別に最も優れた発表に「最優秀賞」、その中から最も評価が高かった発表には「教育長賞」、発表に対する質疑応答の中で、素晴らしい質問やアイデアを出した参加生徒に「Good

Performance 賞」が授与されます。またこのイベントは、高校生、中学生に限らず、どなたでも見学いただけます。発表校はご覧のとおり、32 の高校と3つの中学校になります。次に、(2)の高校生による小学生向け科学体験講座ですけれども、県立高校7校の高校生が、それぞれ①から⑦の科学体験講座を実施します。なぜ、この7校なのかですが、①の四日市高校から⑥の上野高校までは、スーパーサイエンスハイスクールの指定を受けている学校です。理数系の課題研究などに注力している学校です。また、それ以外にも理数科設置校がありまして、それが⑦の神戸高校です。ですので、このスーパーサイエンスハイスクール指定校、それから理数科設置校ということで、この7校ということになります。なお、この講座への参加には事前申し込みが必要でして、申し込みはすでに締め切っております。これは当日参加ができませんので、ご注意ください。

○ 高校生が小中学校で防犯及び交通安全に関する出前授業を行います

児童生徒が防犯及び交通安全のための知識と態度を身につけられるように、学校安全アドバイザーの指導のもと、県立伊賀白鳳高等学校の生徒が教材を作成しまして、伊賀市立上野東小学校と伊賀市立緑ヶ丘中学校で出前授業を行います。授業を行うのは、お手元の資料の2のところにありますように、高等学校の生徒会の役員5人です。授業の内容ですけれども、資料の4のところに内容を記してあるのですけれども、まずは高校生が児童生徒のリストアップした通学路における危険箇所について、パワーポイントを使って説明します。このリストアップした危険箇所というのは、資料の一番下のところの参考にお示ししていますように、この夏場に小学生、中学生、高校生がそれぞれでリストアップしまして、その際に指摘した箇所のことです。そしてこうした説明の中で、交通安全クイズを行いまして、児童生徒の交通安全と防犯の理解を深めます。最後に安全マップの使い方を説明して終了ということになるのですけれども、その安全マップについて実際の画像を見ていただければと思いますので、説明をお願いします。

(生徒指導課)

この作成した安全マップをご覧ください。今お示した黄色が伊賀市立上野東小学校の生徒が危険箇所として選んできた箇所となります。続いて、赤色が伊賀市立緑ヶ丘中学校の生徒が選んできた危険箇所となっています。最後に、この紫色のところなのですが、これは伊賀白鳳高校の生徒が選びました。このマップを作成したことで、この3つの色が重なっているところは、全ての校種で危険と感じているということが分かってきました。今日はその2つを紹介させていただきたいと思います。1つ目は、この名阪国道を降りてすぐにあるコンビニエンスストアがある所なのですけれども、ここは交差点がたくさん集まっており、また、車の出入りもたくさんあってとても危険ということです。このポイントを押さえると、小学生がこのように写真を撮って、「このコンビニへの出入りは車両に注意して渡りましょう」であったり、中学生は「コンビニのエリアは危険」、高校生はまたちょっと違った見方になるのですけれども、「交通量の多い信号のない変則交差点」というふうを示してくれて

います。2つ目は、名阪国道の高架下になるのですけれども、こちらになります。小学生は、防犯の面から、「夕方には暗くなる、車が駐車でき、あまり人が通らないため、不審者や連れ去りに注意しましょう」といったコメントを書いています。中学生は、「下り坂で自転車のスピード出し過ぎに注意」、高校生は、「横断歩道がなく高架下は暗くて危険」という、それぞれの見方でコメントと写真を載せていただいています。私もマップ作成にあたり、伊賀が地元ですので、こういった道を普段通るのですけれども、子どもたちが通学の時間や通勤の時間帯にどういったように感じているとか、小学生だから感じるようなこういった狭いところがあるとか、そういったことに気付くことができました。このマップを活用していただいて、児童生徒だけでなく、大人が子どもと一緒に交通安全について話す機会にしていきたいですし、ぜひ大人にも見ていただきたいマップとなっております。

(教育長)

あと少しだけ申し添えます。この出前授業を行った後の取組ですけれども、資料5に少し書いてありますけれども、作成したデジタル安全マップは実践地域の学校ホームページに掲載しまして、児童生徒が学習端末で危険箇所を確認できるようにしますし、保護者や警察署等と共有して安全マップの活用を促します。それから、市町教育委員会の指導主事や県立学校の生徒指導担当者が集まる会議で、「実践マップ」や「マップ作成マニュアル」を共有します。ここに出てくる「マップ作成マニュアル」という言葉、これが今年度初めて行っている取組で、これまでとは異なる新規ポイントになります。伊賀白鳳高校の生徒が「デジタル安全マップ作成マニュアル」を作成しまして、それを普及していくことで、他の学校でも安全マップづくりができるように取組を進めていきたいと考えています。

発表項目に関する質疑

○ 「みえ探究フォーラム2023」を開催します

(質) フォーラムですけれども、何年からやっていますか。

(答) これは平成28年度にみえ自然科学フォーラムという名前で始めているのですけれども、この探究学習に当たる部分の発表は、28年度から毎年やっております、8回目の実施になります。それから2番目に説明しました科学体験講座はその翌年29年度から始めているのですけれども、令和2年度、3年度がコロナ禍で中止していますので、今回は5回目の実施になります。

(質) 研究成果の発表については、みえ自然科学フォーラムの時代から実施しておることですかね。

(答) そうですね。少しずつ変わってきていますけれども、28・29年度は自然科学だけだったのが、30年度から社会科学や人文科学にまで広がったとか、そういう変化はありますけれども。

(質) なるほど。30年度からは、社会科学、あとは人文科学。

(答) そうです、広がっています。令和2年度からは、みえ探究フォーラムという名前に改

めて、探究的な活動をより強調した形の名前になっています。

(質) そうすると、みえ自然科学フォーラムが前身ということですよね。

(答) そうですね。

(質) その当時は自然科学に限定というか、そのジャンルでの発表。

(答) 最初の2年間は自然科学ですね。その後、30年度と令和元年度の2年間はみえ科学探究フォーラムです。

(質) なるほど。その科学探究というところからこの探究となったのは、何か意味があるのですかね。

(答) 総合的な学習の時間が総合的な探究の時間に変わったのが、令和元年度の入学生から先行実施していますので。

(質) その名称が変わったから、それに合わせてフォーラムの名前も変わっているというニュアンスでいいのですかね。

(答) そうです。

(質) 35校の中高ということですけど、生徒は何人ぐらいが発表すると言ったらいいのですかね。

(答 高校教育課) 合わせて230名が発表します。

(質) 約230人。グループか何かで発表する形になるわけですね。

(答 高校教育課) グループもありますし、個人もあります。

(質) 個人もある。口頭発表というのはいわゆるプレゼンのような形で、壇上で何か示しながら。

(答) これは1人が代表で発表するのでしたっけ。

(答 高校教育課) プレゼンのような形で、チームで発表したり、個人で発表させてもらったりします。

(答) ポスター発表はポスターの横で説明をするという形です。

(質) ポスター発表というのは、掲示するだけじゃなくて。

(答) ポスターの前で説明をします。

(質) 基本プレゼンのような感じで進むのですね。

(答) そうです。

(質) 審査は誰がするとおっしゃっていましたか。

(答 高校教育課) 高校教員と大学教員が。高校教育課も入りますけれども。

(質) 生徒さんも審査する。

(答 高校教育課) はい。相互に評価をいたします。

(質) 中学生、高校生、両方。

(答 高校教育課) はい。

(質) 何かこうちょっと教育長として、今年は何かその例年と変わっているところは。去年もやっているのですよね。

(答) やっています。変わった点が1つございまして、中身自体はそう大きく変わらないのかもしれませんがけれども、もう1つ三重県の教育委員会でやっているイベントに「高校生みえ創造サミット」というのがございまして、今年もやっているのですけれども、今まではそれぞれで発表会をやっていたのです。それを、今回はその「みえ創造サミット」の方々も、このみえ探究フォーラムで発表してもらおうということで、イベントが違うものなのですけれども、発表の場は同じにしました。これは科学が好きな方々とか、探究を頑張っている方々が、学校やその学年の枠を越えて交流することで、やっぱり化学反応があるだろうということで、そういう刺激を受けて、学習意欲をさらに高めてもらうということをねらいにしまして、そういう別のイベントと一緒にして、最後の発表と一緒にやってもらうことにしたということが今年は違います。

(質) 全体として、何かフォーラムへの期待とか、参加される方への激励のようなお言葉はありますか。

(答) 今申し上げたことがまさにそうだと思うのですけれども、科学が好きな方や、探究活動を行っている方々がそれぞれで刺激をし合って高め合って、自分の意欲を高めていただけて、そして県全体の教育のレベルアップにつなげていただけたらなと思うところでございます。

(質) 学校の中でグループとか個人で優秀な人を選んで、代表として出てくるというイメージですか。

(答 高校教育課) 学校から何でもかんでもというわけじゃなくて、口頭発表は各学校2つまで、ポスター発表は各学校3本までです。各学校で選ばれてという意味では、選ばれた方が代表選手になります。

(質) ちょっとイメージするのに、去年で例えば教育長賞を取ったときはどういうテーマなのですか。

(答) 去年の教育長賞は、口頭発表部門では桑名高校が取っておりまして、その発表の中身は、「真核細胞における凍結損傷の研究」、要はその細胞を凍結したときに、その凍結による損傷を、どのように抑えるかみたいな、酵母を使えば、その損傷が少し抑えられるというか生存率が高まるとかいうか、そういう研究をしたものが選ばれています。

(質) 社会科学系では何かありますか。

(答) 教育長賞はそれでした。それから、ポスター発表部門は桜丘高校の「酸が環境に及ぼす影響」ですのでこれも自然科学系ですね。あと最優秀賞はいろいろと観点ごとに選ばれていますので、人文科学系のものもいくつかあります。「川の環境と人間活動の影響」ですとか、そういうものも選ばれています。

(質) 素晴らしい質問をした人に「Good Performance 賞」とか、これはどういう意味。

(答 高校教育課) プレゼンで発表した後に、会場で質疑応答があるのですけれども、その中のオーディエンスの方で、鋭い質問とか意見を言われて、その発表が盛り上がるわけなのですが、その盛り上げというか、発表の充実に貢献して、彼のこの意見を言われた

質問された方の視点がよかったなという方を、その方に対して「Good Performance 賞」を差し上げているということです。

(答) とにかく今の高校では、学んだものをどう生かして、問題解決につなげていくのか、そういう問題解決力とか思考力とか、そういう課題解決に係る力を育成しようというところに力を入れていますので、そういうことをしっかりとレベルを上げていこうというための取組ですので、そこのところをよく理解いただければありがたいと思います。

(質) そういうやりとりが活発になされるのですか。

(答 高校教育課) 質疑応答は活発に行われています。

(質) 今回はどういう発表が想定されていますかね、簡単でいいのですけども。分野とか、こんなことが予定されている発表で。テーマくらいで。

(答 高校教育課) 物理分野、化学分野、生物分野や社会科学系の分野になります。その具体の、例えば社会科学のテーマが何というところになると、今集めている最中ですので申し上げることはできないのですけれども。

(答) ただ先ほど申し上げた「みえ創造サミット」の方から来られるところは、こちらの方は完全に地域の活性化をテーマとした研究をさせていただいていますので、そこからの発表は間違いなく地域活性化です。

(質) 地域活性化に向けた提案もあるという。

(答) そうです。

○ 高校生が小中学校で防犯及び交通安全に関する出前授業を行います

(質) デジタル安全マップの話なのですけども、この日の出前授業で作るわけじゃなくて、もう作ったものを。

(答) もう作っています。これがそうですので。

(質) 7日の取材の時に、これを使ってまたクイズとかをするという。

(答) そうですね。これを使ってクイズをして、理解を深めていこうということです。

(質) デジタル安全マップを活用した、いわゆるクイズとかそういう。

(答) そうですね。授業を高校生がするということです。

(質) 実際に事件・事故が起きているものとの対応はどうなっているのですか。

(答 生徒指導課) 実際の事故と対応はしていません。

(質) していませんか。自分たちが自ら見て危ないと思って。

(答 生徒指導課) そういうことです。

(答) 小学生の視点、中学生の視点、高校生の視点でそれぞれ挙げているので、それぞれの見方で挙げている場所も違うし、危険の度合いの見方も違うということで、それぞれの気付きにつながるだろうというふうに考えています。

(質) 実際に事件・事故は起きていないのですね。

(答) 起きた場所もひょっとしたらあるかもしれませんね。

(答 生徒指導課) そうですね。そこはちょっと確認で。

(質) つまり統計とかそういう事件・事故が実際起きているというよりは、自分たちの目で見て、危ないなと思うということが大事ということですね。

(答) そうです。

その他の項目に関する質疑

○ 職員の人事異動（市町立小中学校）について

(質) 辞職とあるのですが、何かあったのですか。

(答) 今日の定例会で承認された人事異動は、前回の記者会見で懲戒処分の発表をさせていただきまして、桑名の校長先生が停職3月になって、本日辞職しましたとお話しましたが、その後任の人事です。

(質) 人事異動は。これ退職される方の名前というのはいらないのですかね。

(答) 調べていただいたらすぐわかると思います。

(質) そういうことですね。

(答) 一応、懲戒処分の発表の基準というのがあるんで、よほど逮捕されたりして新聞等で名前が明らかになっているもの以外は、名前は伏せさせていただいていますので、すいませんが、よろしくお願いします。

(質) かねては、最近のことはともかくとして、かねては、ある意味ダブルスタンダードで、処分した時には匿名で、その数日後に出る人事の発表には実名で記されているというケースが昔はよくあったのですね。それを改めたということになるわけですから。

(答) 改めたというか、それぞれの発表の基準に沿っているんで、懲戒の場合は名前は伏せるというのは、基本的にスタンダードになっています。

(質) ただいずれにせよ、人事異動というのは基本的には実名で公表することになりますね。

(答) はい。退職のところには名前は出ると思います。

(質) うん。わかりました。

○ 三重県立中学校条例案について

(質) 中学校条例案というのは、この前名前が決まった。

(答) そうです。夜間中学の件です。

(質) 夜間中学の、みえ四葉ヶ咲中学校の関係でちょっとお伺いしたいのですが、最終案が先日承認されて、県議会にも議案が出されると思うんですけど、改めて今後のスケジュール感というか、生徒募集を、もしわかればいつから始めて、そういう募集要項なんかが出されて、もしわかれば。

(答) 募集は間違いなく6年度に行います。7年度から学校が始まりますので、来年に募集を行っていくということになります。

(答 小中学校教育課) 来年の秋を予定しています。生徒募集は。

(質) 例えば、四日市とか、そういう県北部の方もたくさん希望されている方がいらっしゃると思いますけど、そういうところも何か、例えばオンラインとか、そういうところというのはお考えとしてはどうですか。

(答) 基本的に、県内の全域から来ていただきたいと思っているので、県北部からもぜひ通っていただきたいと思っているのですけれども、通えない場合もあると思います。来年度も基本的には今のまなみえを存続しますので、どうしても通えない方はそちらの方に通っていただくかもしれませんけれども、本校に通っていただいた時に一定、オンラインでやる場合がある可能性はありますので、できるだけ活用していく必要があるのかなと思っています。そのオンラインの活用については、本当に正式な授業として認められるかどうかは、いろいろと議論は国の方でもされているようですけれども、まだ正確には、正式な授業として認められていませんので、あくまでも補助的に使えるかどうかという話だと思っていますけれども。

(質) 例えば、四日市市内にサテライトとか、そういうところというのは。

(答) それは検討しています。実際にはまだ正式に了解をもらっていないのであくまでも検討としか言えないのですけども、各方面からそういうご希望は伺っております。ですので、そういうことができるかどうかはちょうど我々としても検討している段階で、できるかどうかについて今は答えられませんけれども、そういう課題認識は持っています。

○ 三重県公立学校情報機器整備基金条例案について

(質) 議案第51号 三重県公立学校情報機器整備基金条例案、何か足りないのですか。

(答) いえ。恐らく聞かれたことがあると思いますけども、小中学校には1人1台端末というのが整備されていて、国が基本的に負担をして整備されたものなのですけども、今、更新の時期がきていて、この第2期の更新をどうするのか、だいぶ国の方で議論をされて、結局のところ、文部科学省が予算を勝ち取って、この第2期の整備も基本的に国の負担でやるということが決まりました。ただやり方が変わって、都道府県が全部その国からのお金をプールして、市町の小中学校の1人1台端末の整備について、中に入っていくということになりましたので、県の方に基金を作る必要が生じまして、この基金を作る条例を今回教育委員会にかけたということです。

(質) 特に三重県だけがどうこうというわけでは。

(答) 全国です。どの県もです。

以上、13時58分終了